

地産地消推進プログラム



平成24年7月

秦野市地産地消推進協議会

目 次

1	趣旨	2
2	計画の期間	2
3	構成	3
4	数値目標	4
5	推進体制	5
6	地産地消推進プログラム	6
(1)	基本目標 安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進【生産、販売】	7
ア	基本施策1 環境に配慮した新鮮で安全な農産物の生産	7
イ	地産地消の推進【重点施策・事業】	7
ロ	環境にやさしい農業の推進【重点施策・事業】	8
ハ	堆肥供給の促進	8
イ	基本施策2 特産農産物の生産振興と販路拡大	12
イ	特産・振興農産物の普及・拡大【重点施策・事業】	12
ロ	特産品・特産物づくりの奨励	12
ハ	直売施設の活性化	13
ニ	多様な販路の確保	13
(2)	基本目標 農業に対する理解の促進と交流活性化【市民交流】	16
ア	基本施策1 観光農業等の促進	16
イ	体験型農業の拡充【重点施策・事業】	16
ロ	観光農業の促進	17
ハ	観光農業資源の整備・活用	17
イ	基本施策2 農業者と市民との交流推進による農空間づくり	20
イ	食農教育の推進【重点施策・事業】	20
ロ	食育推進	21
ハ	交流事業の展開、食農情報の発信	21
ニ	市民参加型農業の推進	22
7	～あなたらしい『地産地消』をお手伝いします！～地産地消推進プログラム・相談先一覧	22

1 趣 旨

本市では、市民、農業、その他関係機関と連携し、農業・農地のもたらす様々な恵みを生かしたまちづくりを進めるための指針となる「秦野市都市農業振興計画」を策定し、農業分野の目標や、その実現に向けた具体的な方針を明らかにしています。

この秦野市都市農業振興計画では、「一農業者と市民が育む、農のある快適なまちー（多様な農業資源を生かし、地域と調和した持続可能な都市農業の実現）」という将来像を掲げ、これを実現するための4つの基本目標を掲げています。

このうち、地産地消の推進に関する基本目標である「安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進【生産、販売】」並びに「農業に対する理解の促進と交流の活性化【市民交流】」を達成するため、農業者、生産者、並びに商工、観光、健康・食育の関係者が一丸となり幅広い「秦野版地産地消」を推進する「地産地消推進プログラム」を策定し、具体的な取組方法を掲げ実践するものです。

2 計画の期間

本プログラムの計画期間は、秦野市都市農業振興計画との整合を図るとともに、より実効性のあるものとするため、平成24年度から平成27年度まで4年間とします。なお、実践メニューについては、「地産地消推進プログラム策定・進行管理委員会」で社会情勢の変化や進捗状況を検討し、随時見直しができるものとします。

3 構成

本プログラムは、秦野市都市農業振興計画で掲げられている基本目標Ⅲ『安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進』並びに基本目標Ⅳ『農業に対する理解の促進と交流の活性化』に基づく4項目の基本施策と、14項目の「主な施策・事業」及び「具体の取組」について、その方法を明確にした実践メニューで構成します。

■ 体系図



【将来像】

農業者と市民が育む、農のある快適なまち

方法・実施主体を明確化した『実践メニュー』 = 「地産地消推進プログラム」

4 数値目標

秦野市都市農業振興計画では、計画期間中において市が特に重点的に実施する取組として位置付けをした重点施策・事業について、平成27年度までに実施を目指そうとする目標を数値で示しています。本プログラムでもこの数値目標を踏襲するものです。

【秦野市都市農業振興計画 重点施策・事業の数値目標について】

■ 地産地消の推進

内 容	指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)
秦野産農産物を応援する地産地消サポーターを増やします。	地産地消サポーター協力員数	128人	200人
	地産地消サポーター協力事業所数	24事業所	45事業所

■ 環境にやさしい農業の推進

内 容	指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)
秦野産農産物の安全性や品質の向上を推進し、農業者や市民等へのPRを図ります。	GAP（農業生産工程管理）の導入団体数	7団体	12団体

■ 特産・振興農産物の普及・拡大

内 容	指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)
特産農産物の収穫量を増やします。	落花生の年間出荷量（*1）	32.4t	35t

■ 体験型農業の拡充

内 容	指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)
観光農業の取組みを促進します。	体験型農業実施事業数	33事業	48事業
	オーナー制度実施事業数	6事業	21事業

■ 食農教育の推進

内 容	指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)
学校給食への供給量を増やします。	小学校給食における秦野産農産物の占める割合	30.6%	33%
子どもが農業に触れ合う機会を増やします。	親子農業体験事業（*2）参加者数	213人	250人

*1 年間出荷量：秦野市農協への出荷分

*2 親子農業体験事業：秦野市食生活改善推進団体が実施するアイデア料理コンテストや地場産野菜教室、経営士会が実施する小学生農業体験及び農協が実施するちゃぐりんスクール（農協が食農教育の一環として毎年実施している事業で、子どもたちに食べ物や農業を通じて地域の文化を伝えている）

5 推進体制

本プログラムは、地産地消推進プログラム策定・進行管理委員会を中心に、生産者、消費者、市民団体、事業所、関係機関及び行政が連携をとりながら、農業、商工、観光、健康・食育、教育の分野が一体となって推進します。

6 地産地消推進プログラム

基本目標

Ⅲ 安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進【生産、販売】

基本施策

1 環境に配慮した新鮮で安全な農産物の生産

農産物に対する安全・安心志向が進む中、新鮮で安全な農産物の生産・供給を図るため、農業者・流通関係者・市民が一体となった産地ブランドの構築による地産地消の推進や環境にやさしい農業の推進を図ります。

(1) 地産地消の推進 【重点施策・事業】

【**具体の取組①**】 秦野産農産物PR、消費者が求める情報の提供（「交流事業の展開、食農情報の発信」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○地産地消推進プログラム・ダイジェスト版の作成・配布	実施	継続	継続	継続
○情報誌及びホームページの充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、ブログ、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続
○各駅毎に農産物直売施設の設置の検討 ※現在、鶴巻温泉駅前では毎週土曜日に朝市が開催されている。また、秦野駅・渋沢駅前ではJAはだの特産センターで、地場農産物を買うことができる。	検討	検討	実施	継続
○旬カレンダーやレシピ等のパンフレットの作成、配布	実施	継続	継続	継続
○都市での広報活動、アンテナショップ等の出店の検討	検討	検討	実施	継続

【**具体の取組②**】 秦野産農産物を応援する地産地消サポーター制度の推進（「多様な販路の確保」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだの産農産物応援サポーターと生産者が直接意見を交換するイベントの実施	検討	実施	継続	継続
○はだの産農産物応援サポーター店のPR実施（タウン紙等への掲載）	検討	実施	継続	継続
○はだの産農産物応援サポーター店と農家のマッチングイベントの検討	継続	継続	継続	継続

【**具体の取組③**】 農村レストランなどイベントを通じた地産地消の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○集客力のある大きな「祭り」等への農村レストラン出店による宣伝・PR活動	継続	継続	継続	継続
○常設・農村レストランの通年実施の検討	検討	実施	継続	継続
○各種イベントのPR実施（駅など人の目につきやすいところへの掲載）	実施	継続	継続	継続
○店舗ブログ等を使ったPR活動とイベントの実施	検討	実施	継続	継続

【**具体の取組④**】新たな起業の促進と起業者への経営・技術面の支援（特産農産物づくりの奨励）の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○市内の農家による農産加工品の製造・販売の現状を把握し、支援やPRの手法を検討	実施	継続	継続	継続

【**具体の取組⑤**】再生産可能な適正価格による農産物の取引推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○農産物のコスト面も計算された適正価格のあり方を、作り手・売り手相互で理解を進め、買い手への周知・PRをする取り組みを検討	検討	検討	実施	継続
○B級品等の農産加工品への利用促進や「理由（わけ）あり企画」での適正価格による取引の検討	検討	検討	実施	継続
○秦野の固有種（秦野大根等）の調査、研究、栽培、保存	検討	実施	継続	継続

（2）環境にやさしい農業の推進 **【重点施策・事業】**

【**具体の取組①**】GAP（農業生産工程管理）や生産履歴記帳による品質確保

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○GAP手法についての研修会の実施	実施	継続	継続	継続

【**具体の取組②**】エコファーマー認定制度（環境保全型農業）の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○環境保全型農業直接支援交付金を活用したエコファーマーの育成・確保	実施	継続	継続	継続

【**具体の取組③**】農産物ブランド化登録制度（環境保全型農業）の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○秦野優良農産物等登録認証制度（旧秦野ブランド農産物登録認証制度）の認定基準に環境保全型農業の取組を加える。	実施	継続	継続	継続

（3）堆肥供給の促進

【**具体の取組①**】耕種農家との連携（堆肥提供者リストの普及、耕種農家での活用促進）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○現状分析（堆肥の生産及び普及の状況、堆肥成分表示他）と解決策の検討	検討	実施	継続	継続
○市内堆肥供給リストの見直し	実施	継続	継続	継続
○堆肥供給リストへの参加呼びかけ	実施	継続	継続	継続

【具体の取組②】 生ごみ等有機性資源を活用した堆肥の生産研究、流通促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
市民農園、はだの市民農業塾等において、生ごみ堆肥化の生産及び利用についての検討	検討	実施	継続	継続

取り組み事例

【地産地消情報誌「丹沢はだの名水そだち」】

地産地消に関する旬の情報を市民に広く伝えるため、地産地消情報誌「丹沢はだの名水そだち」を、年4回発行しています。市役所農産課窓口や各公民館、はだの産農産物応援サポーター店（P.7に詳しく紹介しています）などで配布しているほか、市ホームページで閲覧することができます。



地産地消情報誌「丹沢はだの名水そだち」

【はだの農産物雑学帳】

地域で採れる農産物の旬や雑学、市内産地マップ、直売施設、市民農園、掘り取り観光情報など、地域の農業に親しんでもらうための情報をたくさん掲載した「はだの農産物雑学帳」を作成し、配布しています。



はだの農産物雑学帳

【はだの産農産物応援サポーター制度】

自分のできることから秦野の農業を応援する個人、団体等ならだれでも登録できるサポーター制度を実施しています。個人でサポーターになると、定期的に地産地消の最新情報を受け取ることができます。

また、サポーター登録している飲食店を「サポーター店」と呼び、地産地消情報誌を置いてもらうなど、地産地消に関する情報の発信基地の役割を担っていただいています。

サポーター店では、市内の子どもたちが考えた地産地消アイデア料理を実際に商品化する「はだのっこが考えた地産地消レシピを食べよう月間（＝略して、『地産地消月間』）」も開催するなど、取り組みが広がっています。



はだの都市農業フォーラム2012
サポーターを含む消費者が生産者と意見交換



サポーター店紹介冊子も配布中。
サポーター店の目印に黄色い旗を配布。

取り組み事例

【うちほのうめもん、食ってっけえろ〜秦野の農村レストラン】

市内で農産加工品の製造・販売をする生産者が中心となって、平成23年度に実行委員会を立ち上げました。農家が昔から食べてきた料理を市民に食べてもらい、地域の食文化を知ってもらうことで、地産地消を推進する取り組みを始めています。

秦野たばこ祭、はだの都市農業フォーラム、森林事業関連イベントなどで地場農産物を活用した手料理を提供し、好評を得ています。



大盛況だった「秦野の農村レストラン」
(秦野たばこ祭時)

【試食イベント】

市内の農業グループによる地場産農産物を使用した各種試食イベントが実施されています。

イベントの内容は、例えば、野菜ソムリエの資格を持つ農家グループが、品種の違うジャガイモの食べ比べや、旬の野菜を使った料理の試食を実施し、新鮮な農産物のおいしさや、使い方などをわかりやすく伝えています。



はだの野菜ソムリエ倶楽部による試食イベントの様子

取り組み事例

【GAP（農業生産工程管理）手法の普及・定着】

GAP（農業生産工程管理）手法は、農産物の安全確保はもちろん、環境負荷の軽減、農作業者の安全確保、安定的な農業経営など幅広い面から持続的な農業経営を実現することが期待できる取組の一つです。

市では、「生産者自らが必要性を感じ、生産者が中心になって取り組みを進めていける“生きたGAP（農業生産工程管理）手法”の導入」を目指してきました。

平成21年度から市内生産者グループがGAP（農業生産工程管理）手法を導入し始め、現在8グループが取り組んでいます。

さらに、市ではこれからGAPに取り組む人・グループのための「簡単！はだの版GAP導入ガイドブック」も配布し、さらなる普及・定着を図っていきます。



それぞれのグループが
試行錯誤しながら進めている
“生きたGAP”

【堆肥供給リストの掲示】

堆肥を作っている市内畜産農家をリスト化し、JAグリーン（農業資材販売）やはだの都市農業支援センターなどに掲示しています。耕種農家は、この堆肥供給リストを利用して、市内の畜産農家から堆肥を購入することができます。

【秦野優良農産物等登録認証制度】

平成18年度から「農産物ブランド化推進事業」を実施し、産地ブランド化を図ってきました。

そして、平成22年度から、ブランド農産物の差別化による付加価値化を目指すため、事業全体の見直しを実施し、より明確な登録要件及び審査方法を決めました。

新しい登録要件（①秦野産、②環境にやさしい、③安全・安心、④高品質）に基づき、農産物並びに農産加工品を、『秦野優良農産物』として認証し、今後の有利販売及び販路拡大に向け広く周知していきます。



秦野優良農産物のシンボルマーク

基本目標

Ⅲ 安全な農産物の生産・消費による地産地消の推進【生産、販売】

基本施策

2 特産農産物の生産振興と販路拡大

本市の地域特性を生かした多様な農産物の生産振興を図るため、特産である落花生の生産拡大の促進と加工品を含めた新たな特産品・特産物づくりを奨励します。また、秦野産農産物の販路拡大を図るため、直売施設の活性化や量販店・市場、地元飲食店等との提携促進による多様な販路の確保を図ります。

(4) 特産・振興農産物の普及・拡大 【重点施策・事業】

【**具体の取組①**】地産地消の推進による農産物の産地ブランド化の促進と有利販売の検討

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○秦野優良農産物等登録認証制度の普及	実施	継続	継続	継続
○秦野優良農産物等登録認証制度の普及パンフレット作成・配布	実施	継続	継続	継続
○市内小売店への優良農産物等登録認証品の特設ブースの設置の働きかけ	検討	実施	継続	継続
○秦野優良農産物等登録認証制度の商標登録を検討	検討	実施	継続	継続

【**具体の取組②**】特産農産物の生産量拡大、生産効率・技術の向上、品質向上促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○特産農産物の周知拡大のためのマスメディア、インターネット、SNS等の利用	実施	継続	継続	継続
○特産農産物の生産支援と新たな生産者の確保	検討	検討	実施	継続
○新たな特産品となる農産加工品の開発研究	検討	検討	実施	継続

【**具体の取組③**】農商工連携による生産・販路拡大に向けた協議

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだのっ子が考えた地産地消アイデアレシピを食べよう月間（＝略して『地産地消月間』）の定着。	検討	実施	継続	継続

(5) 特産品・特産物づくりの奨励

【**具体の取組①**】新たな農畜産物加工品の生産、流通（「女性農業者の経営参画、起業家促進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○農産加工起業セミナーの実施	継続	継続	継続	継続
○農産加工品製造・販売を始める人向けのパンフレット作成・配布	実施	継続	継続	継続

【**具体の取組②**】特産農産物加工施設の設置・活用の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○生産者による農産加工品の製造・販売状況調査及びその情報提供	実施	継続	継続	完了

【**具体の取組③**】 起業者への経営・技術面の支援と新たな起業の促進（「地産地消の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○集客力のある大きな「祭り」等への農村レストラン出店による宣伝・PR活動	継続	継続	継続	継続
○農村レストランの常設及び通年実施	検討	実施	継続	継続
○各種イベントのPR（駅など人の目につきやすいところへのポスター等の掲示）	実施	継続	継続	継続
○店舗ブログ等を使ったPR活動とイベントの実施	検討	実施	継続	継続

【**具体の取組④**】 農商工連携による新商品開発に向けた協議

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだのっ子が考えた地産地消アイデアレシピを食べよう月間（＝略して『地産地消月間』）の実施	継続	継続	継続	継続
○全国規模での流通先の確保の検討	検討	実施	継続	継続
○食品製造業や飲食店との連携による付加価値のある農産加工（食）品の開発	検討	検討	実施	継続

（6） 直売施設の活性化

【**具体の取組①**】 既存直売所施設の活性化（直売所情報の発信など）と新たな直売所施設の設置促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○売り場全体の見直し（消費者が購入しやすい環境づくり）：（地場産・産地間提携品の区別が理解できない場合がある）	継続	継続	継続	継続
○既存直売所（じばさんず等）でのレストラン又は飲食スペース等の開設に向けた検討	検討	実施	継続	継続

【**具体の取組②**】 新東名高速道路秦野サービスエリア（仮称）や周辺における農業関連施設の設置

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○「作る・売る」だけでなく、「買う・プラス楽しみ」がある施設の提案	検討	実施	継続	継続
○農産物（だけ）でなく、農産加工（食）品の開発、販売、広報の強化	検討	実施	継続	継続

（7） 多様な販路の確保

【**具体の取組①**】 秦野産農産物を応援する地産地消サポーター制度の推進（「地産地消の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだの産農産物応援サポーター店と農家のマッチングイベントの検討	検討	実施	継続	継続
○はだの産農産物応援サポーターと生産者が直接意見を交換するイベントの実施	検討	実施	継続	継続
○はだの産農産物応援サポーター店PR実施（タウン紙等への掲載）	検討	実施	継続	継続

【具体的取組②】量販店、市場、飲食店等との提携

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○コーナー（販売）企画をパッケージとして提案	検討	実施	継続	継続
○新しい農産物の販売方法の検討・提案	検討	実施	継続	継続
○量販店での地元産農産物（加工品含む）の販売促進	検討	実施	継続	継続

【具体的取組③】農商連携による販路拡大に向けた協議

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだのっ子が考えた地産地消アイデアレシピを食べよう月間（＝略して『地産地消月間』）の定着	継続	継続	継続	継続
○全国規模での流通先の確保の検討	検討	実施	継続	継続
○食品製造業や飲食店との連携による付加価値のある農産加工（食）品の開発	検討	検討	実施	継続

取り組み事例

【はだのっ子が考えた地産地消レシピを食べよう月間（＝略して『地産地消月間』）】

地場農産物を使ったレシピの普及と、地産地消のPRを目的に、秦野市食生活改善推進団体が主催している「お皿いっぱい秦野の味～アイデア料理コンテスト」に応募されたレシピを、はだの産農産物応援サポーターに登録している飲食店で、期間限定で商品化する「はだのっ子が考えた地産地消レシピを食べよう月間」を実施しています。



【秦野の農畜産加工品】

市内では、地場農産物を使った農畜産物加工品が、生産者により製造・販売されています。

市とJAでは、新たに農産加工品の製造・販売を始める方のための、農産加工起業セミナーを実施し、担い手育成にも努めています。

さらに、市内生産者の農産加工の技術を市民に知ってもらうことを目的に、「うちほおのうめえもん、食ってってけえろ～秦野の農村レストラン」も実施しています。

生産者による農産加工品の製造販売は、市内農産物の消費拡大を図るとともに、地域の豊かな食文化を伝えていく役目も担っています。



生産者による手作りの農産加工品 ↑



←アイス工房プラト:都市近郊に立地する有利性を活かし、従来の「生産するだけ」から、流通販売まで含めた付加価値のある地域特産物を販売するため、畜産農家が平成8年に乳製品の加工販売施設を整備した。



取り組み事例

【市内の農産物直売所】

市内では、大型直売施設『JAはだの・じばさんず』をはじめ、個別の直売所などの常設型直売施設や、定期的に行われている朝市などで、地元で採れた新鮮な農産物や美味しい農産加工品を手に入れることができます。直売所や朝市の情報は、ホームページなどでも紹介しています。

◇市内の主な直売所・朝市◇

名称	問合せ先	場所等
JA はだの丹沢農産物直売所	0463-81-7718(JAはだの)	県立秦野戸川公園内 土・日・祝/13時00分～
鶴巻温泉朝市(おおね地区農産物直売グループ)	0463-77-1660	鶴巻温泉駅前交番前 土/7時00分～9時30分
おおね公園朝市	0463-77-5586	おおね公園内 毎日(月曜のぞく)/10時00分～
フレッシュファーム戸川	090-4416-6668	県立秦野戸川公園諏訪丸駐車場そば 土・日/10時00分～17時00分
東地区農産物直売所(東地区農産物直売研究会)	0463-84-1281	田原ふるさと公園内 毎日/9時00分～16時00分(年末年始、月曜定休、月曜日が祝祭日の場合は翌日休み)
JA はだの東支所農産物直売所	0463-81-2549	JA はだの東支所 毎日/8時30分～18時00分
JA はだの西支所農産物直売所	0463-88-7333	JA はだの西支所 毎日8時30分～18時00分
JA はだのじばさんず	0463-81-7707	秦野市平沢 477 毎日(1月1日～3日を除く)/9時～18時
直売所『土のかほり』	090-3069-5244	秦野市洪沢 2611 水・土・日/10時～
やさい畑ゆう・ゆ～直売所	080-1203-7886	秦野市柳町 1-8-15 火・金/9時30分～16時30分

※朝市・直売所は、予定なく変更される場合がありますので、事前に電話等で、確認されることをお勧めします。

※ここでご紹介している朝市・直売所は3人以上の生産者で、定期的に行われているものを掲載しています。

※お買い物の際には、小銭をご用意下さい。

基本目標

Ⅳ 農業に対する理解の促進と交流の活性化【市民交流】

基本施策

1 観光農業等の促進

本市の地域特性と地域資源を生かした観光農業等を促進し、農業・農産物に対する理解を深めるため、各種掘り取り観光・オーナー制度などの体験型農業の拡充や観光農業資源の整備・活用を図ります。

(1) 体験型農業の拡充 【重点施策・事業】

【具体の取組①】 オーナー制度の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○オーナー制度の内容の周知及びPRの実施	検討	実施	継続	継続
○オーナー制度の受け入れ農家の拡大	実施	継続	継続	継続

【具体の取組②】 掘り取り・もぎ取り観光（落花生、さつまいも、いちご、みかん）の実施、新規団体の育成

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○現在ある掘り取り観光農園等の現状把握	実施	継続	継続	継続
○“おもてなし”、“楽しさの演出”、“清潔さ”、など観光農園の経営向上のための研修会等の実施	検討	実施	継続	継続
○規模拡大への支援を検討	検討	検討	実施	継続
○積極的な広報活動の検討及び実施	検討	実施	継続	継続

【具体の取組③】 農園ハイク、蕎麦打ち体験、ブルーベリー・玉ねぎ等の収穫体験の実施

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○現在ある観光農業イベント等の現状把握	実施	継続	継続	継続
○“おもてなし”、“楽しさの演出”、“清潔さ”、など観光農園の経営向上のための研修会等の実施	検討	実施	継続	継続
○積極的な広報活動の検討及び実施	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代の参加促進	検討	実施	継続	継続

【具体の取組④】 既存果樹園の観光農園化の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○現在ある観光農園等の現状把握	実施	継続	継続	継続
○“おもてなし”、“楽しさの演出”、“清潔さ”など観光農園の経営向上のための研修会等の実施	検討	実施	継続	継続
○進入路、駐車場、トイレ等の整備及び観光農園を集中させることにより、経営の効率化に向けた検討	検討	検討	実施	継続

(2) 観光農業の促進

【具体の取組①】 援農事業の実施

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○援農事業（プログラム）の作成（情報提供に活用）	検討	実施	継続	継続

【具体の取組②】 観光農業に取り組む団体のネットワーク化、法人化の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○観光農業に取り組む団体のネットワーク化（観光農業に関する情報の共有化）	検討	検討	実施	継続
○本市観光農業の振興策の検討	検討	検討	実施	継続
○既存の宿泊施設を活用した滞在型農業体験の実施の検討	検討	検討	実施	継続
○旅行者等向けに観光農業に関する情報提供を実施	検討	検討	実施	継続
○情報（観光農業）窓口の一本化を図り、一体的な広報の実施	検討	実施	継続	継続
○観光農園開設や、法人化に関する相談窓口の設置	検討	実施	継続	継続

【具体の取組③】 農業・農村体験や文化交流等の余暇活動の実施・検討

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○集客のターゲットの検討（県内に里山等がない、自然環境の違う市や都会の小・中学校等を中心とした「遠足」など）	検討	実施	継続	継続
○市内の学生や先生を対象にした企画の検討	検討	検討	実施	継続
○既存の宿泊施設を活用した滞在型農業体験の実施の検討	検討	検討	実施	継続
○市内外の関連NPO等の交流、シンポジウムの開催など関連イベントの積極的な受け入れ	実施	継続	継続	継続

【具体の取組④】 市内観光地等と連動した周年型観光農業の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○市観光協会等と連携して、年間観光農業カレンダーの作成	検討	実施	継続	継続
○市内観光地周辺農家等への協力依頼、支援、広報の強化（特に旅行代理店との連携）	検討	実施	継続	継続

(3) 観光農業資源の整備・活用

【具体の取組①】 観光農業情報の発信

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○情報誌及びホームページ等の充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、インターネット、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続

【具体の取組②】遊休農地等への景観作物の植栽による花畑づくり

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○花畑づくりの担い手の検討(社会貢献を目的とした若者のグループとタイアップするなど)	検討	実施	継続	継続
○より魅力的な花畑づくり(観賞用の花に限らず)について研究する機会の創出(特徴的な品目の選定等)	検討	実施	継続	継続
○JA女性部が実施している大豆プロジェクトや秦友会が実施するデントコーン迷路等の各企画での利用を検討	実施	継続	継続	継続

【具体の取組③】観光花園の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○より魅力ある観光花園について研究する機会の創出(「みる、摘む、楽しむ」だけでなく、経験・感動につながる「体験」等をセットにする試み等への支援。例：アレンジ・ドライフラワー等)	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続
○より魅力的な花畑づくりについて研究する機会の創出(特徴的な品目の選定等)	検討	実施	継続	継続

【具体の取組④】震生湖周辺における観光農園の整備

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○“おもてなし”、“楽しさの演出”、“清潔さ”など観光農園の経営の在り方や運営について、農園開設者が研修する場の提供	検討	実施	継続	継続
○実施重点地域(地区)の選定し、整備する	検討	実施	継続	継続

【具体の取組⑤】駐車場やトイレ等受入れ体制の整備検討

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○進入路、駐車場、トイレ等の整備促進	検討	実施	継続	継続

取り組み事例

【秦野市農業経営士会・夏休み小学生農業体験】

秦野市農業経営士会では、夏休みに、小学生農業体験学習を開催しています。野菜、花き、お茶、酪農などの農家が、数人ずつ小学生を受け入れ、農作業体験を実施し、「食」や「農」について学習する場を提供しています。

【農園オーナー制度と満喫CLUB】

落花生、大豆、サツマイモ、ジャガイモ、タマネギ、米、キウイフルーツのオーナー制度が実施されています。申し込んだ区画数に合わせて作物の収穫ができるとともに、農業体験なども行われています。消費者にとっては、顔のわかる農家から新鮮な野菜を購入でき、かつ、レクリエーションとして農に親しむことができ、農家にとっては、農作業の軽減につながります。さらに、JA はだのでは、登録すると、オーナー制度のお知らせを中心にイベント情報を提供する、「満喫CLUB」を運営しています。

取り組み事例

【農園ハイク】

農園ハイクは、丹沢秦野観光農業研究会が主催する、秦野戸川公園周辺をハイキングしながら、畑で収穫体験等を行うイベントです。受付でチケットを購入し、畑でチケットと交換で野菜を収穫したり、直接購入したりすることができます。



【掘り取り観光】

市内3つの掘り取り観光組合と、1つの市民グループが、落花生、サツマイモ、ミカン、花の掘り取り観光を行っています。

堀山下掘り取り観光組合	落花生、サツマイモ	9月～11月 ☎0463-81-8464
名古木掘り取り観光組合	落花生、ミカン	9月～10月 ☎0463-88-6180
菩提掘り取り観光組合	落花生	9月～10月 ☎090-9679-6258
アイモスク	花	7月～ ☎はだの都市農業支援センター 0463-81-7800

【観光イチゴ園～いちご狩り～】

もともと、品質が良く生産量も県内3位のシェアを占めるイチゴ。平成22年から市内で続々と観光イチゴ園がオープンしています。どの農園も、高設栽培で通路が広く、誰でも利用しやすい工夫がされています。



【ブルーベリー農園マップ】

J Aはだのブルーベリー研究会が、摘み取り体験や直売がある農園を含む、ブルーベリー農園マップを作成しました。J Aはだの営農課やじばさんず、各農園で配布されています。



基本目標

Ⅳ 農業に対する理解の促進と交流の活性化【市民交流】

基本施策

2 農業者と市民との交流推進による農空間づくり

農業・農地や食の重要性を市民に伝え、農業に対する支援が得られる環境を整えるため食育・食農教育の推進や市民との交流事業の展開を図ります。また、市民が農業に参加できる環境を整え、市民との協働による農空間づくりを促進するため、市民農園等を活用した市民参加型農業を推進します。

(4) 食農教育の推進 【重点施策・事業】

【具体の取組①】 学校給食への供給量拡大及び安心・安全な農産物提供のための関係機関との連携強化

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○学校給食担当者（料理、栄養など）のニーズと地域生産者の生産状況（品目・量など）について状況把握をする	実施	継続	継続	継続
○学校内における食農教育の指導や現地見学などを実施する「食農教育講座」等の開催	検討	実施	継続	継続

【具体の取組②】 学校給食への食材供給団体の育成・強化

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○学校給食担当者（料理、栄養など）のニーズと地域生産者の生産状況（品目・量など）についての状況把握	実施	継続	継続	継続
○既存の食材供給団体と生産者との交流、理解促進の機会創出	実施	継続	継続	継続
○学校給食に地場産のものをより取り入れるための制度の検討	検討	検討	実施	継続

【具体の取組③】 子ども・保護者及び生産者による農業体験事業の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○学校給食担当者（料理、栄養など）のニーズと地域生産者の生産状況（品目・量など）について状況を把握する。	実施	継続	継続	継続
○学校等（保育園、幼稚園含む）行事で、保護者等の農業体験事業への参加促進（先生、子ども、保護者を巻き込んだ企画の実施）	検討	検討	実施	継続
○親子食育推進事業、乳幼児健康診査での幅広い周知	検討	実施	継続	継続
○市内の小学校では1年に1回農地での農業体験を実施する ※市内小学校13校、中学校9校で学校農園を開設しているのは、小学校10校、中学校5校。ただし、農園を開設していなくても、地域の農地で農業体験をしている学校もある。	検討	実施	継続	継続
○親子で参加できる農業体験事業の推進	継続	継続	継続	継続
○中学生以上が参加できる農業体験事業の検討	検討	実施	継続	継続

【具体の取組④】 学校農園の活用（「市民参加型農業の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○学校行事で、保護者等の農業体験事業への参加促進（先生、子ども、保護者を巻き込んだ企画の実施）	検討	検討	実施	継続
○植え付けから収穫までの農業体験学習の促進	実施	継続	継続	継続
○農家による学校内での農作物の栽培指導の実施	実施	継続	継続	継続
○中学校が学校農園を開設する際の相談受入及び協力	実施	継続	継続	継続

(5) 食育の推進

【具体の取組①】 秦野市食育推進計画の推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）の推進	実施	継続	継続	継続

【具体の取組②】 健全な食生活、食文化等への理解を促す各種講座・事業の実施

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○J A女性部が行っている企画（ふるさと料理教室、大豆プロジェクト等）を生かし、発展させ、年齢の違う女性たちが交流することで、食文化を伝える	実施	継続	継続	継続
○生活習慣病の一次予防と地産地消を目的とした、はだの野菜ヘルシー料理講座の充実	実施	継続	継続	継続
○家庭での食環境の調査、解析と、それを踏まえた、家庭での豊かな食環境を実現するための講習会の検討	検討	実施	継続	継続

【具体の取組③】 食育推進組織との連携強化

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○食育推進組織のイベントや企画にアドバイザーとして参加を促進	実施	継続	継続	継続
○食育推進組織の育成と活動支援	実施	継続	継続	継続
○食育推進組織や食育ボランティア向けに、秦野の郷土料理や農産物、特産物を学ぶ勉強会の検討	検討	実施	継続	継続
○地産地消推進と食育推進に関する問題の共有と問題解決の場を設ける	検討	実施	継続	継続

【具体の取組④】 福祉施設など市内公益施設への秦野産農産物供給のシステムづくりの促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○福祉施設など市内公益施設への秦野産農産物供給のシステムづくりが進まない問題点の抽出とその解決に向けた対策の検討	検討	実施	継続	継続
○自ら農産物を作っているところもある福祉施設の把握と、交流・情報交換	検討	実施	継続	継続

(6) 交流事業の展開、食農情報の発信

【具体の取組①】 畜産まつり・農業まつり・農産物品評会等の各種イベントの推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○来場者が“美味しい食べ物”を食べられる企画の検討。（合わせて、来場者数や各種ブースの販売状況等を把握する。）	実施	継続	継続	継続
○地場産物の特産ブースの開設を検討する	検討	実施	継続	継続
○「地産地消」を意識した取り組み（出店など）の優遇及び推進	実施	継続	継続	継続
○効果的なPR手法の検討	実施	継続	継続	継続

【具体の取組②】 田原ふるさと公園の活用推進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○現状と、活用促進の際に考えられる問題点とその解決策の検討	実施	継続	継続	継続
○ふるさと公園を拠点に周辺徒歩圏内で様々な体験ができるような環境づくり	検討	実施	継続	継続
○情報誌及びホームページの充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、ブログ、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続

【具体の取組③】 秦野産農産物のPR（「地産地消の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○各駅毎に農産物直売施設の設置を検討 ※現在、鶴巻温泉駅前では毎週土曜日に朝市が開催されている。また、秦野駅・渋沢駅前にJAはだの特産センターがあり、地場農産物入手ができる。	検討	検討	実施	継続
○旬カレンダーやレシピ等のパンフレットの作成、配布	実施	継続	継続	継続
○都市での広報活動、アンテナショップ等の出店の検討	検討	検討	実施	継続
○情報誌及びホームページの充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、インターネット、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続

【具体の取組④】 消費者が求める情報の提供（「地産地消の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○情報誌及びホームページの充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、インターネット、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続
○消費者が求めるニーズの情報収集	実施	継続	継続	継続
○旬カレンダーやレシピ等のパンフレットの作成、配布	実施	継続	継続	継続
○都市での広報活動、アンテナショップ等の出店の検討	検討	検討	実施	継続
○ホームページを、食育関係のページとリンクさせ、充実する	実施	継続	継続	継続

(7) 市民参加型農業の推進

【具体の取組①】 市民農園の利用促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○収穫祭等を実施し、それをPRすることで周知と利用者増加につなげる	検討	実施	継続	継続
○情報誌及びホームページの充実	実施	継続	継続	継続
○ラジオ等マスメディアを利用した情報発信や、インターネット、SNSの開設及び更新	検討	実施	継続	継続
○乳幼児健康診査や親子食育推進事業を利用した、子育て世代への周知	検討	実施	継続	継続

【具体の取組②】新たな市民農園の開設促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○利用者の収穫祭的な企画開催により、周知と利用者増加を図る	検討	実施	継続	継続
○順番待ちが出ている現状解消のため、市民農園数の拡大を推進（農園の運営レクチャー等）	検討	実施	継続	継続
○トイレ、水場等の環境整備の検討（市民農園整備促進法の活用に関するレクチャー等の検討）	検討	実施	継続	継続

【具体の取組③】学校農園の活用（「食農教育の推進」の項に別掲）

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○学校行事で、保護者等の農業体験事業への参加促進（先生、子ども、保護者を巻き込んだ企画の実施）	検討	検討	実施	継続
○収穫時に近隣住民の方々を招く等、開放的な学校農園の検討	検討	検討	実施	継続
○植え付けから収穫までの農業体験学習の促進	実施	継続	継続	継続
○農家による学校内での農作物の栽培指導の実施	実施	継続	継続	継続

【具体の取組④】援農等に取り組む市民グループの育成・農業参画

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○自治会や教育関係への呼び掛けを検討	検討	実施	継続	継続
○効果的な育成支援について検討	検討	実施	継続	継続
○援農に取り組む市民グループの現状把握	実施	継続	継続	継続

【具体の取組⑤】市民参画・ボランティアによる荒廃農地解消活動

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○活動後の楽しみを検討	検討	実施	継続	継続
○荒廃農地解消活動に対する支援の検討	実施	継続	継続	継続

【具体の取組⑥】畜産環境衛生対策の促進

地産地消推進プログラム 実践メニュー	実施年度			
	H24	H25	H26	H27
○嫌悪イメージが定着する前に、早急な対応を検討	実施	継続	継続	継続
○畜産農家と地元住民の相互理解が得られる環境づくりへの取組の検討	実施	継続	継続	継続

取り組み事例

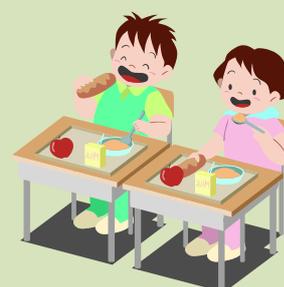
【学校給食への地場農産物の供給】

地域農業への理解を促進し、地産地消を推進するため、地域の農家グループの協力を得て、学校給食に地域で採れた地場農産物を提供しています。

東小学校には、東地区農産物直売研究会が、北・堀川・西小学校には、丹沢秦野観光農業研究会が、渋沢小学校には峠営農組合が、それぞれ地域で採れた新鮮な野菜を給食食材として提供しています。

また、特定の品目をJAはだの農産物大型直売施設「じばさんず」が、いちごをJAはだのやさい部会いちご部が給食の食材に提供するなど、学校給食における地産地消に力を入れています。

その結果、給食で使用する農産物の30%を秦野産が占めており、県内でトップクラスとなっています。



【親子地場産野菜教室】

地域農業への理解の促進と、食や食を生み出す人への感謝の心を育む事を目的に、1年間を通じて種まきから収穫、料理し食べるまでを体験する教室です。

野菜の栽培指導は、田原ふるさと公園にある直売所に出荷している農家グループ（東地区直売研究会）が、料理の指導は、食を通じて健康を推進する市民ボランティアグループ（秦野市食生活改善推進団体）が担当しています。



取り組み事例

【ふるさと料理教室】

JAはだの女性部では、若い主婦などを対象に伝統的なふるさと料理を教える料理教室を実施し、食育・食農や食文化の伝承に力を入れています。さらに広くふるさと料理を伝えるため、各種伝統料理のレシピを集めた「伝えたいふるさと料理」の本を発行し、販売しています。

【はだの野菜ヘルシー料理講座】

秦野市食生活改善推進団体では、地場農産物をふんだんに使い、1食約500キロカロリーの料理を教える料理教室を実施しています。料理教室には毎回市内の農家が来て、旬の食材情報や野菜の栽培方法などについて話を聞くことができます。農家と生産者が直接顔を合わせて、交流する機会の1つになっています。



【市民農園】

市内には、さまざまな市民農園があります。それぞれの環境や希望により農園のタイプを選らび、利用することができます。

農園名	特徴	問い合わせ先
東田原ふれあい農園	農機具、トイレ、水道設備等完備	0463-84-1440 土曜日午前中のみ
堀山下ふれあい農園	農機具、トイレ、水道設備等完備	0463-87-6052 午後6時以降のみ
さわやか農園 (市内各所)	利用料が安価。ただし、施設・機具等無し。空きが少ない。	0463-81-7800 JAはだの
コミュニティ農園 (市内3か所)	コミュニティ活動の健全な育成の一環として消費者と農業者等の地域住民の連帯感を推進するための農園	0463-82-5118 市役所市民自治振興課 ※募集は、広報はだの毎年3月1日号に掲載。
学校農園 (市内各地)	児童・生徒の学習のために設置している農園です。	—
ふれあい農園 (市内2か所)	高齢者の生きがい活動を目的に設置している農園です。	—



～あなたらしい『地産地消』をお手伝いします！～
地産地消推進プログラム・相談先一覧

※市外局番は、いずれも（0463）です。

こんなことしたい！	こんな事業や制度があります。	連絡先
地産地消の情報を知りたい	地産地消情報誌『丹沢はだの名水そだち』	市農産課農業支援班 81-7800
	市農産課ホームページ	
	はだの産農産物応援サポーター制度	
	満喫倶楽部（オーナー制度関係）	J Aはだの営農課 81-7800
市内農産物の旬を知りたい 産地マップが欲しい	はだの農産物雑学帳	市農産課農業支援班 81-7800
市内の直売施設を知りたい	はだの野菜ソムリエ倶楽部『はだののの野菜情報冊子』	市農産課農業支援班 81-7800
	J Aはだのブルーベリー研究会『秦野市ブルーベリー園マップ』	J Aはだの営農課 81-7718
地産地消推進プログラムが欲しい	地産地消推進プログラム	市農産課農業支援班 81-7800
GAPについて知りたい GAPに取り組みたい	はだの版GAP導入ガイド	市農産課農業支援班 81-7800
	GAP導入のアドバイス	市農産課農業支援班 81-7800 J Aはだの営農課 81-7718
エコファーマーについて知りたい、なりたい	エコファーマー制度	市農産課農業支援班 81-7800 J Aはだの営農課 81-7718
農産物の付加価値化をしたい	秦野優良農産物等登録認証制度	市農産課農業支援班 81-7800
市内の安全・安心、新鮮、美味しい農産物を知りたい、欲しい		J Aはだの営農課 81-7718
野菜・花づくり・農産加工品づくりをしたい	はだの市民農業塾	市農産課農業支援班 81-7800 J Aはだの営農課 81-7718
	市民農園（ふれあい農園、さわやか農園、コミュニティ農園）	都市農業支援センター 81-7800
	市内堆肥供給リスト	市農産課農業支援班 81-7800
	各種相談受付	都市農業支援センター 81-7800

こんなことしたい！	こんな事業や制度があります。	連絡先
農業体験・収穫体験をしたい	親子地場産野菜教室	市農産課農業支援班 81-7800
	オーナー制度・満喫CLUB	J Aはだの営農課 81-7800
	荒廃農地解消活動ボランティアに参加したい。	市農業委員会 81-7800
	観光花園	J Aはだの営農課 81-7800
	掘り取り観光（落花生、サツマイモ、みかん）	市農産課農業支援班 81-7800
	いちご狩り	市農産課農業振興班 82-9626
	農園ハイク	市農産課農業支援班 81-7800
	ブルーベリー狩り	J Aはだの営農課 81-7718
市内の農産物を使った料理に興味がある	お皿にいっぱい秦野の味～アイデア料理コンテスト	市健康づくり課 82-9603 市健康子育て課 82-9604
	『はだのっ子が考えた地産地消アイデア料理を食べよう月間』	市農産課農業支援班 81-7800
	ふるさと料理教室	J Aはだの生活福祉課 81-7707
	『伝えたいはだのふるさと料理』（本）	J Aはだの生活福祉課 81-7707
	うちほおのうめえもん、食ってってけえろ～秦野の農村レストラン	市農産課農業支援班 81-7800
農家の話を直接聞きたい	はだの野菜ヘルシー料理講座	市健康づくり課 82-9603
学校給食に使用している農産物について知りたい	各種相談受付	市学校教育課 84-2785
食育の取り組みについて知りたい	各種相談受付	市健康子育て課 82-9604

○相談先がわからない場合○

はだの都市農業支援センターには、市農産課農業支援班、市農業委員会、J Aはだの営農課の職員が配置されています。各種の相談に対応し、内容に応じでは、適切な相談窓口の御紹介をしています。

はだの都市農業支援センター

住所：〒257-0015 秦野市平沢477
（J Aはだの本所敷地内・団地センター1階）

電話：0463-81-7800

FAX：0463-81-7804